

シラバス (授業計画)

授業科目名	開講学年	必・選	単位数	担当教員名
会 計 監 査 特 論	1・2年生	選択	2単位	伊藤 龍峰
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>到達目標：財務諸表監査の社会的役割の理解と理論的・制度的な専門知識の習得 テーマ：財務諸表監査における枠組みと主要論点の研究</p>				
<p>授業の概要</p> <p>私たちは社会生活を営むかぎり、各種の組織や団体等と無関係ではありえません。このような組織や団体等では、必ず誰かが会計報告を作成し、また誰かがその会計報告を監査しているのです。これまで一部の人達を除いて、監査に対しては比較的無関心であったと言えるでしょう。ただ、監査は身近なところにあり、直接・間接に私たちと深い関わりを持って存在しています。とりわけ、企業と利害関係を持つ場合、企業が公表する財務諸表は、私たちと企業とを結ぶ重要な連結環であり、そのため、財務諸表が信頼できるものであるという保証があつてこそ、私たちは安心して財務諸表を利用することができることとなります。監査は、このような財務諸表の信頼性の保証に大きな役割を果たします。</p> <p>会計監査特論では、公認会計士や監査法人による財務諸表監査の意義と役割を意識しながら講義を展開していきます。</p>				
<p>授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 監査の必要性と法定監査制度</p> <p>第3回 監査全体の流れ</p> <p>第4回 監査基準</p> <p>第5回 リスク・アプローチ監査</p> <p>第6回 内部統制</p> <p>第7回 監査計画</p> <p>第8回 監査の実施</p> <p>第9回 監査結果の報告</p> <p>第10回 監査の品質管理</p> <p>第11回 監査をめぐる国際的な動向</p> <p>第12回 内部統制監査</p> <p>第13回 公監査</p> <p>第14回 財務諸表監査の周辺業務</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>第16回 定期試験等 (課題研究レポート)</p>				
<p>履修上の留意点、準備学習等 (事前・事後学習)</p> <p>(留意点)簿記や会計学に関する学部レベルの知識を有していること。 (事前学習)毎回、次回の報告予定者を指名しますが、報告予定者ばかりではなく、受講者全員が次回の学習領域について事前にテキストを読み、疑問点や質問事項等を整理した上で授業に参加してください。(2時間程度) (事後学習)講義中に理解したことを纏め、疑問点や質問事項等が解決したかどうかを確認してください。その後、授業内容に関する深掘りを行い、自分のものにしてください。(2時間程度)</p>				
<p>テキスト</p> <p>『監査論入門 第4版』 長吉眞一、伊藤龍峰、北山久恵 井上善弘、岸牧人、異島須賀子 著 中央経済社</p>				
<p>参考書・参考文献・参考資料等</p> <p>適宜、資料配布を行うとともに、参考書についても具体的に指示します。</p>				
<p>成績評価の方法・基準</p> <p>定期試験の結果と課題研究レポートの内容(60%)、授業での報告内容や討議への参加状況(40%)を総合的に判断して評価します。</p>				